

子どもの学び、成長とともに地域の維持にも力を

市議会文教経済委で小中学校の「適正配置」方針を議論

文教経済常任委員会は17日、「市立小中学校における適正配置の取組」についての所管事務調査を行いました。

市教育委員会では、「少なくとも1学年1学級以上の学習集団を確保したい」として、まずは複式学級の実情把握をし、「保護者・地域と十分な協議を行った上で」、①隣接する学校との統合、②他校との合同授業、③タブレット型情報端末を活用した遠隔教育、④教職員体制の整備（教職員の加配、教員の複数校巡回授業）を行いたいとしています。

説明後の質疑の中では、いま動きつつある大浦安の中学校統合を意識した質問が多かったように思います。

委員からは、「（背景には）深刻な人口減少がある。これへの対策をまずすべき。平成22年の適正配置基準はいまも通用するのか」「子どもの学び、健やかな成

長と、統合後、地域のコミュニティの維持ができるかどうかが大変だ。合同授業、教員の加配、通学時間の問題などはどう検討したのか」「地域にとって学校は大切。地域の声をまず聞き、理解を得る取組が重要」「文科省のモデル事業の当地での研究はどうなっているのか」などの質問、意見が相次ぎました。

市教育委員会は、「学校配置適正の委員会では、適正基準は特に変える必要はないとの意見をいただいている」「山間地域では少人数のメリットを生かしながら、遠隔操作による対面授業なども行い、こういうのもありますよと紹介しつつ、適正配置の話を進めている」「地域コミュニティの問題は、いまの学校を含め、市



全体で考えていくことだと思っている」「（関係者からは）十分理解いただいたなかで、取り組みを進めてきている」などと答えていました。今後の動きを注視していきます。



日本共産党浦川原支部主催のつどいが19日に開催され、私からは市議会報告をさせていただきました。
私は中川市政が誕生してから一年を振り返り、難聴者が補聴器を購入する際の補助制度など市民の願いのいくつかが実現したこと、公の施設の「適正」配置などの行政改革では前市政と変わらないこと、岸田政権の原発新増設などの方針には「様子見」になっていることなどを報告しました。（イラスト左）

原発問題に大きな関心



【白ナス】ナスは紫色だけと思っていたら、白いナスもあるんですね。今年、吉川区小苗代のある家の畑で、初めて見せてもらいました。皮は少し硬めだけれども、実はぎっしりつまっていておいしいとお聞きしました。花は紫色のナスと同じで、薄紫色でした。花期は6月～11月。花言葉は「希望」「つつましい幸福」です。写真は9月8日、撮影。

参加者からは、「空間放射線量率の現在の数値をどうみたらいいか」「柏崎刈羽原発は他国からならわれているのではないか」「市政は変わるのでないかと期待したが、がっかりしている」などの声が出ました。
今回のつどいでは、憲法「改正」、安全保障にたいする日本共産党の政策と見解について支部長が説明し、意見交換しました。



右のイラストは、大島画廊での飛田尚文さんと藤田一枝さんの「二人展」の様子です。15日。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2082 2022.10.23

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

子どもの学び、成長とともに地域の維持にも力を

市議会文教経済委で小中学校の「適正配置」方針を議論

文教経済常任委員会は17日、「市立小中学校における適正配置の取組」についての所管事務調査を行いました。

市教育委員会では、「少なくとも1学年1学級以上の学習集団を確保したい」として、まずは複式学級の実情把握をし、「保護者・地域と十分な協議を行った上で」、①隣接する学校との統合、②他校との合同授業、③タブレット型情報端末を活用した遠隔教育、④教職員体制の整備（教職員の加配、教員の複数校巡回授業）を行いたいとしています。

説明後の質疑の中では、いま動きつつある大浦安の中学校統合を意識した質問が多かったように思います。

委員からは、「（背景には）深刻な人口減少がある。これへの対策をまずすべき。平成22年の適正配置基準はいまも通用するのか」「子どもの学び、健やかな成

長と、統合後、地域のコミュニティの維持ができるかどうかが大変だ。合同授業、教員の加配、通学時間の問題などはどう検討したのか」「地域にとって学校は大切。地域の声をまず聞き、理解を得る取組が重要」「文科省のモデル事業の当地での研究はどうなっているのか」などの質問、意見が相次ぎました。

市教育委員会は、「学校配置適正の委員会では、適正基準は特に変える必要はないとの意見をいただいている」「山間地域では少人数のメリットを生かしながら、遠隔操作による対面授業なども行い、こういうのもありますよと紹介しつつ、適正配置の話を進めている」「地域コミュニティの問題は、いまの学校を含め、市



全体で考えていくことだと思っている」「（関係者からは）十分理解いただいたなかで、取り組みを進めてきている」などと答えていました。今後の動きを注視していきます。



日本共産党浦川原支部主催のつどいが19日に開催され、私からは市議会報告をさせていただきました。
私は中川市政が誕生してから一年を振り返り、難聴者が補聴器を購入する際の補助制度など市民の願いのいくつかが実現したこと、公施設の「適正」配置などの行政改革では前市政と変わらないこと、岸田政権の原発新増設などの方針には「様子見」になっていることなどを報告しました。（イラスト左）

原発問題に大きな関心



【白ナス】ナスは紫色だけと思っていたら、白いナスもあるんですね。今年、吉川区小苗代のある家の畑で、初めて見せてもらいました。皮は少し硬めだけれども、実はぎっしりつまっていておいしいとお聞きしました。花は紫色のナスと同じで、薄紫色でした。花期は6月～11月。花言葉は「希望」「つつましい幸福」です。写真は9月8日、撮影。

参加者からは、「空間放射線量率の現在の数値をどうみたらいいか」「柏崎刈羽原発は他国からならわれているのではないか」「市政は変わるのでないかと期待したが、がっかりしている」などの声が出ました。
今回のつどいでは、憲法「改正」、安全保障にたいする日本共産党の政策と見解について支部長が説明し、意見交換しました。

右のイラストは3日、市展で絵画を観る人たちが。会場では柿崎区の人たちと出会いました



はしづめ法一の
活動レポート

No.2082 2022.10.23

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

子どもの学び、成長とともに地域の維持にも力を

市議会文教経済委で小中学校の「適正配置」方針を議論

文教経済常任委員会は17日、「市立小中学校における適正配置の取組」についての所管事務調査を行いました。

市教育委員会では、「少なくとも1学年1学級以上の学習集団を確保したい」として、まずは複式学級の実情把握をし、「保護者・地域と十分な協議を行った上で」、①隣接する学校との統合、②他校との合同授業、③タブレット型情報端末を活用した遠隔教育、④教職員体制の整備（教職員の加配、教員の複数校巡回授業）を行いたいとしています。

説明後の質疑の中では、いま動きつつある大浦安の中学校統合を意識した質問が多かったように思います。

委員からは、「（背景には）深刻な人口減少がある。これへの対策をまずすべき。平成22年の適正配置基準はいまでも通用するのか」「子どもの学び、健やかな成

長と、統合後、地域のコミュニティの維持ができるかどうかが大変だ。合同授業、教員の加配、通学時間の問題などはどう検討したのか」「地域にとって学校は大切。地域の声をまず聞き、理解を得る取組が重要」「文科省のモデル事業の当地での研究はどうなっているのか」などの質問、意見が相次ぎました。

市教育委員会は、「学校配置適正の委員会では、適正基準は特に変える必要はないとの意見をいただいている」「山間地域では少人数のメリットを生かしながら、遠隔操作による対面授業なども行い、こういうのもありますよと紹介しつつ、適正配置の話を進めている」「地域コミュニティの問題は、いまの学校を含め、市



全体で考えていくことだと思っている」「（関係者からは）十分理解いただいたなかで、取り組みを進めてきている」などと答えていました。今後の動きを注視していきます。



日本共産党浦川原支部主催のつどいが19日に開催され、私からは市議会報告をさせていただきました。

私は中川市政が誕生してからの一年を振り返り、難聴者が補聴器を購入する際の補助制度など市民の願いのいくつかが実現したこと、公の施設の「適正」配置などの行政改革では前市政と変わらないこと、岸田政権の原発新増設などの方針には「様子見」になっていることなどを報告しました。（イラスト左）



上のイラストは、唐箕で小豆を選別する人です（安塚区上方）

原発問題に大きな関心

参加者からは、「空間放射線量の現在の数値をどうみたらいいか」「柏崎刈羽原発は他国からならわれているのではないか」「市政は変わるのでないかと期待したが、がっかりしている」などの声が出ました。

今回のつどいでは、憲法「改正」、安全保障にたいする日本共産党の政策と見解について支部長が説明し、意見交換しました。



【白ナス】ナスは紫色だけと思っていたら、白いナスもあるんですね。今年、吉川区小苗代のある家の畑で、初めて見せてもらいました。皮は少し硬めだけれども、実はぎっしりつまっていておいしいとお聞きしました。花は紫色のナスと同じで、薄紫色でした。花期は6月～11月。花言葉は「希望」「つつましい幸福」です。写真は9月8日、撮影。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2082 2022.10.23

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七二九回

リンドウの花

前から気づいてはいました。わが家の墓があるこの場所には秋になればリンドウの花が咲くはずだと。

今年も、お盆入りの二日前になって、墓場の草刈りをしました。その際も私は、リンドウを確認していました。長年見てきたので、リンドウの葉の形、茎全体の雰囲気は頭の中にすっかり入っています。間違っても刈払わないように注意しながら作業を進めました。

正直言うと、秋にわが家の墓場へ行き、リンドウの花が咲いているところをこれまで見たことはありませんでした。それだけに、今回、墓場でリンドウの花が咲いているのを見て、初めて出合ったときと同じくらい、うれしくなりました。

この日は、香典返しを渡さなければならぬ家が二軒あって、市道半入沢線を車で下っていました。虫場が近づき、左奥にわが家の墓場が見えたとき、急に寄りたくなりました。理由は母が亡くなったことを父や祖父などに伝えておかなきゃならないと思ったからです。

墓のそばまで行くと、墓の一番上にとげの付いたクリがのっていました。木からまっすぐ落ちて、墓石にピタリと着地したのです。

手を合わせてから、私は墓に向かって声をかけました。「トチャ、ジチャ。こんだ、そっちへバチャ行くすけね、頼むよ」言いたいことはそれだけだったのですが、どうしても頼んでおきたかったのです。

わが家の墓場の隣には、親戚である「いどんしり」（屋号、井戸尻）の墓もありました。一三年前に農作業事故で亡くなった「いどんしり」のトチャとカチャにも母のことを頼みました。おそらく「いどんしり」のトチャのことですから、「ほっかね、そりや、いいやんべだ」と言ってくれたと思います。

もちろん、どちらの墓からも返事を確認するすべはありません。ただ、雨がしとしと降っていて、虫たちの鳴き声もしない静けさがある、そのときの周りの雰囲気から、なんとなく、伝わったという自信みたいなものが私の心にはありました。

リンドウの花が目に入ったのは、墓場の平のところから車を止めた道に下りるときです。「いどんしり」の墓から一メートルくらいしか離れていない場所に紫色の花がくると巻いた感じでいくつか見えました。見た瞬間、「おお、リンドウが咲いている」と声を出しそつになりました。

わが家の墓場がある場所は「がまびろ」（正式名は釜平）と呼んでいました。四十年ほど前まで、ここには畑があり、ジャガイモなどを植えていました。そばにある柿の木、杉、クヌギの木などを利用して三か所でハサバも作っていました。秋になれば、稲のはさかけをし、乾けば稲入れをする。稲作農家だったわが家にとっては、とても大事な場所でした。

リンドウの花を写真に収めてから、子どものころ抱きついて登った柿の木をしみじみと眺めました。ごまの入った美味しい甘柿の姿は残念ながら見ることはできませんでした。ハサバがあったところも、その面影はまったくなく、すっかり自然に戻っていました。でも、バイクのエンジンがか

け、ライトを点けて親子ではさがけをしている姿や耕運機に山盛りの乾いた稲を積んで運ぶ父や母の姿は目に浮かびました。車に乗り込もうとしたとき、リンドウは墓場だけでなく、近くの土手にあるものも花を咲かせていることを確認しました。それも一か所だけではありません。少なくとも三か所はありました。

墓場を支えるように咲いているリンドウを見て、私は思いました。リンドウの花は母を思い出す大切な花になると。

芸能は生きる力につながる

16日は浦川原区の「月影の郷」にて月影芸能まつりでした。弔問客の応対は家族の者に任せ、1時間半ほど参加してきました。

来賓挨拶では、13年前に亡くなった父がよく歌っていた三橋美智也の歌のこと、先日亡くなったばかりの母が好きだった由紀さおりの「夜明けのスクエアカット」の話をし、「歌や芸能は生きる力につながる、これからも頑張ってくださいの応援します」とのべさせてもらいました。

オープニングは浦川原太鼓です。先日、8日の演奏会には出れなかったのですが、とても良かったです。太鼓の音を聞くと元気が出ます。その後、コーラス、踊り、フラダンスを楽しませてもらいました。みなさん、お上手ですね。イラストは保倉川太鼓、牧区の女性のみなさん。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月12日(水)	10月19日(水)
上越南消防署	0.050	0.057
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.047	0.043
名立分遣所	0.050	0.060
高士分遣所	0.057	0.050

春よ来い

第七二九回

リンドウの花

前から気づいてはいました。わが家の墓があるこの場所には秋になればリンドウの花が咲くはずだと。

今年も、お盆入りの二日前になって、墓場の草刈りをしました。その際も私は、リンドウを確認していました。長年見てきたので、リンドウの葉の形、茎全体の雰囲気は頭の中にすっかり入っています。間違えて刈払わないように注意しながら作業を進めました。

正直言うと、秋にわが家の墓場へ行き、リンドウの花が咲いているところをこれまで見たことはありませんでした。それだけに、今回、墓場でリンドウの花が咲いているのを見て、初めて出合ったときと同じくらい、うれしくなりました。

この日は、香典返しを渡さなければならぬ家が二軒あって、市道半入沢線を車で下っていました。虫場が近づき、左奥にわが家の墓場が見えたとき、急に寄りたくなりました。理由は母が亡くなったことを父や祖父などに伝えておかなきゃならないと思ったからです。

墓のそばまで行くと、墓の一番上にとげの付いたクリがのっていました。木からまっすぐ落ちて、墓石にピタリと着地したのです。

手を合わせてから、私は墓に向かって声をかけました。「トチャ、ジチャ。こんだ、そっちへバチャ行くすけね、頼むよ」言いたいことはそれだけだったのですが、どうしても頼んでおきたかったのです。

わが家の墓場の隣には、親戚である「いどんしり」（屋号、井戸尻）の墓もありました。一三年前に農作業事故で亡くなった「いどんしり」のトチャとカチャにも母のことを頼みました。おそらく「いどんしり」のトチャのことですから、「ほっかね、そりや、いいやんべだ」と言ってくれたと思います。

もちろん、どちらの墓からも返事を確認するすべはありません。ただ、雨がしとしと降っていて、虫たちの鳴き声もしない静けさがある、そのときの周りの雰囲気から、なんとなく、伝わったという自信みたいなものが私の心にはありました。

リンドウの花が目に入ったのは、墓場の平のところから車を止めた道に下りるときです。「いどんしり」の墓から一メートルくらいしか離れていない場所に紫色の花がくると巻いた感じでいくつか見えました。見た瞬間、「おお、リンドウが咲いている」と声を出しそつになりました。

わが家の墓場がある場所は「がまびろ」（正式名は釜平）と呼んでいました。四十年ほど前まで、ここには畑があり、ジャガイモなどを植えていました。そばにある柿の木、杉、クヌギの木などを利用して三か所ハサバも作っていました。秋になれば、稲のはさかけをし、乾けば稲入れをする。稲作農家だったわが家にとっては、とても大事な場所でした。

リンドウの花を写真に収めてから、子どものころ抱きついて登った柿の木をしみじみと眺めました。ごまの入った美味しい甘柿の姿は残念ながら見ることはできませんでした。ハサバがあったところも、その面影はまったくなく、すっかり自然に戻っていました。でも、バイクのエンジンがか

け、ライトを点けて親子ではさがけをしている姿や耕運機に山盛りの乾いた稲を積んで運ぶ父や母の姿は目に浮かびました。車に乗り込もうとしたとき、リンドウは墓場だけでなく、近くの土手にあるものも花を咲かせていることを確認しました。それも一か所だけではありません。少なくとも三か所はありました。墓場を支えるように咲いているリンドウを見て、私は思いました。リンドウの花は母を思い出す大切な花になると。

芸能は生きる力につながる

16日は浦川原区の「月影の郷」にて月影芸能まつりでした。弔問客の応対は家族の者に任せ、1時間半ほど参加してきました。

来賓挨拶では、13年前に亡くなった父がよく歌っていた三橋美智也の歌のこと、先日亡くなったばかりの母が好きだった由紀さおりの「夜明けのスクエアカット」の話をし、「歌や芸能は生きる力につながる、これからも頑張ってください。応援します」とのメッセージをもらいました。

オープニングは浦川原太鼓です。先日、8日の演奏会には出れなかったのですが、とても良かったです。太鼓の音を聞くと元気が出ます。その後、コーラス、踊り、フラダンスを楽しませてもらいました。みなさん、お上手ですね。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月12日(水)	10月19日(水)
上越南消防署	0.050	0.057
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.047	0.043
名立分遣所	0.050	0.060
高士分遣所	0.057	0.050